



部長先生インタビュー

北海道大学大学院医学研究院整形外科学教室 岩崎 倫政 教授

北海道大学病院整形外科 清水 智弘 助教

—— 貴教室および関連病院（同門会員）での女性会員数は何名でしょうか？

北大整形外科では現在 19 名の同門女性医師が活躍しています。近年は毎年のように研修プログラムに参加する女性医師がおり、徐々に増加傾向です。

—— 貴教室のホームページでは、初期 4 年間の研修コースが丁寧に示されていますが、産休・育休・介護休暇などで中断せざるを得ない場合も、この研修コースに速やかに戻ることは可能でしょうか？

速やかに戻ることは可能です。関連病院が札幌市内および道内中心都市に多くあるため、通勤を含めた勤務環境に関して希望に沿う形で研修コースに復帰できるような体制を構築しています。加えて、ハード面だけではなく、専攻医に対するレクチャーを週 2 回、教室で開催していますが、関連施設で勤務している専攻医にもレクチャーを受講できるように Web 配信を行っています。これは産休・育休・介護休暇中であっても同様に受講でき、知識のブラッシュアップに役立つと考えています。また、研修プログラム前に出産や育休・介護などの予定がある場合も、それに応じた研修プログラムを事前に設定することも可能です。

—— 初期研修期間中メンター制度（指導医が、研修医の相談役を務める）のようなものはありますか？

あります。HP をご覧になっていただければ明示しておりますが、「北大整形外科チューター制度」と「北大整形外科アカデミックポイント制度」を導入し研修医をサポートしております。前者は大学教官が専攻医一人一人に「チューター（指導医）」となり、専門医取得に必須である論文執筆・学会発表に関する指導を責任もって指導する形をとっています。関連病院に異動後も研修状況を責任もって把握し、必要に応じて関連病院の常勤医師と連携をとり、指導を継続するような形をとっております。後者は、各専門分野で参加を推奨する学会や講演会を明示し、関連研修病院と情報共有し学会や講演会などに若手が優先的に参加できるようにする仕組みを構築しています。当然、チューターが研修上の悩みや相談も引き受けるメンターとしての役割も担っています。

—— 専門領域を決めるにあたっては、本人の希望はどの程度考慮されるのでしょうか？

当科では、整形外科一般診療に加えて、専門領域の知識を持った医師の養成が重要であると考えています。そのため、専攻医プログラムからシームレスに各専門領域のカリキュラムに移行できるシステムをとっております。どの分野も充実した専門研修体制を構築しており、100%希望できる専門領域に進める体制です。また「リサーチマインドをもった臨床医」の育成が教室全体に課せられた使命であり、大学院進学

を希望した際には、希望するタイミングで、希望する専門領域に関連する基礎研究を行えるように基礎研究チームを整形外科内で構築しています。専門領域の決定、大学院への進学と研究領域の決定に関しては本人の希望を100%優先します。

—— **地域的に遠方への赴任も多いのではないかと推測されますが、育児・介護などの家庭的な状況も考慮されるのでしょうか？**

当然考慮されます。札幌市内および北海道内の主要都市の基幹病院の多くが当科関連病院になっています。御家族の勤務事情（例えば、夫が医師の場合）に対応して、これらの関連病院にて勤務できる柔軟な人事が可能です。

—— **専門性を追求するにあたり、短期・中期の国内留学のような研修制度はありますか？**

本人の希望に応じて、理化学研究所などの国内トップレベルの研究施設や他大学、ある分野に特化した施設（例えばプロスポーツのチームドクターを行っている施設）に留学して、個々のキャリアを築いていけるように他施設との協力体制は整っています。また当大学、当教室では「国際性の涵養」が目標の一つですので、海外留学も積極的に推奨しており、継続して留学希望者を送っている医療機関もいくつかあります。専攻医を含めた若手教室員と教授との定期的面談により、国内外への留学の希望を聞き、希望者を適切な時期に国内外へ送り出す体制になっています。

—— **育児・介護休などで、長期休職後の臨床への復帰にあたり、支援体制はつくっておられるのでしょうか？**

北大整形外科女医の会が定期的開催され、女性医師の先輩方からのサポートを得られるような環境となっています。「家事や育児への参加」「ワーク・ライフ・バランス」など男性医師も解決していくべき課題であるため、仕事の効率化とシェアを積極的に行っています。また、比較的調整可能な外来中心の勤務体制から入るなどの支援体制も整えています。

今後、ポストコロナの New Normal 様式や働き方改革への対応がますます迫られてきます。当教室では、これに対応するために IT を導入した遠隔診療や専攻医を含めた若手医師への指導システムの整備を急ピッチで進めています。教室全体の勤務及び指導体制の効率化が、女性医師の支援体制の基盤となると考えています。

—— **最後に医学生・研修医の先生・女性医師に応援メッセージをお願いいたします。**

キャリア、年齢を重ねるごとに個々の Priority は変化していくものです。しかしながら、大学受験で医学部を志した際に抱いた将来像や、臨床実習・初期臨床研修中に感じた理想の医師像は個々のキャリア形成における重要な「シーズ（種）」です。医療の現場にいる人が自分らしい働き方をし、個々の「シーズ」から「花を咲かせる」ためには、「一緒に働く良き同僚・仲間（先輩や後輩も含めた）を多く持つこと」が最も重要であり、互いを補い合い、刺激し合うことができます。また多様なロールモデルがいることにより、若手医師が躊躇せず自分が得たスキルや経験を管理職やリーダーとして発揮でき、次は自分たちがロールモデルとして後輩たちにキャリアの可能性を提示していくことが重要であると考えています。

小児から高齢者まで幅広い年齢層に対し、薬物療法・装具療法・リハビリ・手術療法という幅広い治療を行う整形外科治療では、先人がこれまで苦勞して築いてきた「歴史」を「正しく継承」し「発展」させるこ

とが必要です。①画像診断機器の発展による診断学の向上、②材料工学・バイオマテリアル研究の発展による生体親和性と耐久性の優れたインプラント、③分子生物学的アプローチによる病態解明・新規薬物治療開発・再生医療、④コンピューター・ロボットアシスト手術、などが近年、整形外科分野で発展してきた分野でありすでに臨床の現場に導入されています。これらの発展は「研究」を基盤とするものであり、「研究」の継続が「臨床」を「発展」させる唯一の手段といっても過言ではないと思います。

当教室は、長い歴史のなかで諸先輩方から継承し、オリジナティの高い研究を続けて参りました。近年では、例年 10 数名の新入局員を迎え入れており、多様なロールモデルを育成していくことが実践可能な教室であると考えていますので、興味のある方はぜひ当教室にいらしてください。